



南条つ子

南条つ子は 進んで学ぶ子
思いやりのある子
かいっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成

南条小学校だより

R3.6.15 No.18



校内絵画大会



6月14日(月)から、中ホールで、校内絵画大会の優秀作品のパネル展が行われています。実際の作品をご覧いただくことができないのが残念ですが、児童一人一人が一生懸命に仕上げたすばらしい作品ばかりです。

低学年の作品は、どれも体育大会をテーマにした人物画で、競技や応援に頑張っている

様子や楽しんで取り組んでいる様子が伝わってきます。

3年生以上の作品は写生画で、校舎内外の気に入った様子を切り取り、とても細かいな描写をしたり、遠近感を構図や色の濃淡など工夫して表したりしています。中には、この学年でこれだけの絵を描くことができるのかと驚くほどレベルの高い作品もあります。この機会を利用して、すばらしい作品を見ることで、今後、絵を描く時の参考にしてほしいと思います。

児童の作品を見ていると、とても楽しく豊かな気持ちになります。

SCによるエンカウターの授業

6月14日(月)、SC(スクールカウンセラー)の林先生によるエンカウターの授業が行われました。内容は、「言葉がもつ力」についてです。言葉によっては、「元気を与える言葉」になったり、「元気を奪う言葉」になったりすることがあるので、言葉づかいには本当に気を付けなければなりません。この授業を通して、少しでも言葉づかいを意識するようになってくれることを期待しています。



エンカウター(構成的グループエンカウター)とは

日本語では「出会い」の意味ですが、構成的グループエンカウターにおいて「出会い」とは、「本音と本音の交流」、つまり、通常より深いレベルでの「自己との出会い」、「他者との出会い」を意味します。

「構成的」とは、枠を与える(意図的に仕組む)ということであり、枠の種類は、①エクササイズの内容 ②ルール ③グループの人数 ④グループの構成 ⑤時間の制限 などで。 (ある状況に限定することで、自分を出しやすくなります。)

集団学習体験を通して、行動の変容と人間的な自己成長をねらいとしており、①自己理解 ②他者理解 ③自己受容 ④自己主張 ⑤信頼体験 ⑥感受性の促進を通して自己発見をすることが目的です。新学期が始まって、学級作りをするときなどに行われます。

「ひとつのことば」 北原 白秋

ひとつのことばでけんかして	ひとつのことばでなかなかおり
ひとつのことばで頭がさがり	ひとつのことばで心がいたむ
ひとつのことばで楽しく笑い	ひとつのことばで泣かされる
ひとつのことばはそれぞれに	ひとつの心をもっている
きれいなことばはきれいな心	やさしいことばはやさしい心
ひとつのことばを大切に	ひとつのことばを美しく

北原 白秋 1885年(明治18年)1月25日～1942年(昭和17年)11月2日

日本の詩人、童謡作家、歌人

言葉づかいについて話す時に、よく紹介する詩です。「ひとつのことばはそれぞれに ひとつの心をもっている」、「きれいなことばはきれいな心 やさしいことばはやさしい心」、「ひとつのことばを大切に ひとつのことばを美しく」とてもすばらしい内容だと思います。

言葉1つで、相手を不快にしたり、傷付けたりする恐れがあります。どんな言葉を言っても、小学生だから許されるというものでは決してありません。集団生活をしている以上、年齢に関係なく、言葉づかいには十分に気を付けましょう。